midorinodam.jp

NPO法人
緑のダム北相模

December 2011 No.319-320

１２月号の１枚：朝霧の相模湖（相模湖大橋から）

［巻頭言］　協働・利他主義の世界へ

利己・経済至上主義では立ち行かなくなっている

　原発事故を含む3・11東日本大震災以降の世論が激しく変化している。世界各地での異常災害やユーロ圏での経済混乱などとも同調しているように感ずる。

　様々な批判・評価の差異はあるが、我が国の民・産・官・学が一体となって東北救済に動いていることは事実としてある。永年，米国に次ぐＧＤＰ（国内総生産高）が第２位にあった日本を襲った大災害に対する官・民総力あげての国土再生の動きは、人間の生き方を考える機会を与えた。

　第二次世界大戦後の国土復興は、経済至上主義をもって二次産業・三次産業に傾注して猛烈に挑んできた結果、経済大国となって一見、生活は豊かになった。然し、経済を優先するばかり電力会社の経営手法に見られるように自然に対する配慮が欠けていた。そのため、自然と向き合う一次産業・農林水産業に対する国政の戦略・戦術は、後れを取ってしまっている。経済至上主義＝利己欲望の満足を求める手法に対して貪欲であったことで、自然を破壊していたことに気付いた国民は、自然と向き合いどう考え・何を行動すべきかを考え始めている。今回の大震災は最早地球は、利己・経済至上主義では立ち行かなくなっている事を示した。

　全ての生態系に不可欠な空気・水・土壌を補給してくれる森林減少・荒廃が急速に進んでいる。地球の森林減少・我が国の森林荒廃を解決するには、人類を含めて全ての生態系が自然と調和し互いに相手を思いやる「共に生きる協働、自助・共助・公助・利他主義」に想いを致さねば解決できない。

石村　黄仁（本会、代表理事）

今月の定例活動

2011.12

12月 4日（第一日曜日）：
小原本陣の森/森林整備、担い手育成、技術向上。
　　持続的森林経営：弁当持参。参加費：４００円
12月18日（第三日曜日）：
若柳・嵐山の森/里山交流、多様な森林活動。
　　主食・自分のお椀・箸・飲料水は持参。参加費：４００円

FSC
www.fsc.org
FSC® C006376
責任ある森林管理のマーク

[定例活動]小原本陣の森

11月6日（第一日曜日）

今回の小原定例活動の内容は、拠点の倉庫整備、イベントに向けての準備、小学校の子供たちが安全に行動できるようにするための拠点付近の整備でした。今回の活動日は雨が予報されていましたが、日差しが垣間見えるときもあり、とても活動しやすい日となりました。拠点に着き各々の役割を決め、各自の持ち場に散らばりました。

拠点の倉庫整備では1年生と4年生の各1名が担当し、1年生が4年生に整備の仕方を教わりながら進めていく形となりました。4年生に物品の確認や道具の置き場所などを教わりながら1年生と一生懸命頑張っていました。

イベントのための材加工では、木材を加工しやすい広い場所に移動させ、加工の仕方を教わりながらやらせていただきました。途中でチェーンソーのネジが外れてしまうというアクシデントも発生しましたが、幸い大きな事故も起きず無事に終わることが出来ました。不慣れなことで躊躇したりもしましたが、1枚の板に下ろせたときは何とも言えない達成感が感じられました。

拠点付近の整備では使われなくなった釜を壊して埋めたり、小川沿いの崖手前に木(丸太)を並べ、それが落ちないように杭を打つ作業を前回に引き続き行いました。今回で2回目となるからか、慣れた手つきで杭を作っている1年生が見受けられました。今回目標としていた範囲まで滞りなく進み、いつもよりも大分早く全体作業が終了しました。

余談で、今回はとても奇妙なキノコ(？)を発見しました。ゼラチン質の根元に、発泡スチロールのような素材をした傘をしており、とんでもなく臭いものでした。小原の森にはこんな生物も生息しているのだなと改めて思ったと同時に、とても驚きました。

前回の活動よりも更に作業が進み、先が見えてきたかなぁと思います。小学校の子供たちがなんの気兼ねもなく小原の森を訪れてくれるその日が楽しみですね。定例活動、お疲れ様でした。

金井　美穂（Forest Nova）

[定例活動]若柳嵐山の森

11月20日（第三日曜日）

２日続いての大雨で天気が心配だったが、当日はカラリと晴れた快晴。朝礼前、東京駅前・丸の内・オアゾに展示した“組み合わせ丸太”が森に戻ってきた。これをワイワイと若者たちが手分けして、朝礼広場に移動した。広場が随分と恰好良くなった。

中学・高校は試験中とのことで参加数が少ないかなと思っていたが、日大桜井研究室の森林実習生が、約30名が入って何時もの通り70名を超す盛況。青年の多い活動は、森の未来が希望出来て明るく・楽しく嬉しい。

先ず、生命の森宣言班が設営した観察道はすごく立派なものができたが、沢筋に近いことと少し急坂なためぬかるんでいた。そこで、森林プロ木林士・水出さんに手を入れてもらうために案内。水抜きと階段補強をお願いした。班の活躍で森が素晴らしく明るく綺麗になっている。素晴らしい観察路に仕上がるだろう。生命の森宣言班本体は午前中は、全員で嵐山頂上を極めたとか。頂上は、神奈川景観１００選に入っており、眼下に相模湖、中景に丹沢山塊、遠景に富士山が見える。幸い今日は雨上がりの快晴。佐藤さんが「未だ、嵐山頂上に行った事がない人は是非、見ておくと良い」と報告した。

東京都市大学は雨量測定装置と、この森に隣接する中原沢の水質・水量の調査のための装置を取り付けるために来た。ここが良いと思う場所に案内した。また、この森の科学的な知見が蓄積されていく。

ForestNovaは、間伐ヒノキを有効活用をするのだと各々、適当な大きさに伐って磨きをかけていた。仕上がりは見事な光沢と香りがしているが、これで何が出来るのだろう。仕上がり製品を早く見たいものだ。若者は思いがけないことを仕出かしてくれる。

製品を作る別班は、工作班に隣接した栗林の古木枝落とし整備。栗の木は、かなりの巨木になっており長鋸で切り落とすのだが、不安定で何処に落ちてくるかわからない危険がある。そこはベテラン斉藤会員の適切な指揮で栗林は無事、見事に整理されて行く。来年は栗が豊作だろう。

石村　黄仁（本会、代表理事）

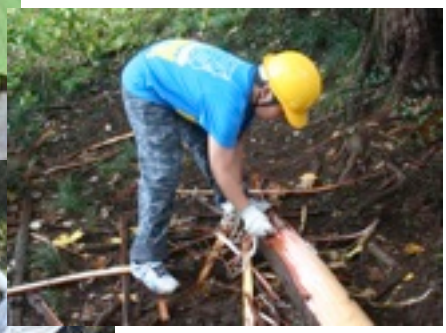
[報告１]
湘南の森活動報告

10月14日

この日も先月２１日の台風による倒木の処理に手分けをして取り組みました。チェーンソー組は浅間山北斜面の古損木を２本処理した後、ヤ

ブラン平の作業に加わり、主として伐採された倒木を細かく切り、全員でそれを美観を損なわないように処理をしました。近くではプロの造園屋さん達も複雑な巨木の倒木処理を実施、当分は私たちも台風の後処理に時間を食わ れそうな感じです。１０月２２日（土）の定例作業は雨のために中止となりました。

佐藤　憲隆（湘南の森）



[報告２]UIA2011東京チェアシティ展を終えて

10月1日

建築のオリンピックと言われるビックイベントの「第24回世界建築会議」は、3.11により、開幕も危ぶまれましたが、大きな障壁を乗り越え10月1日無事閉幕しました。

UIA東京チェアシティ展実行委員会と森林再生事業促進実行委員会共催の「UIA2011東京チェアシティ展」も成功裏の内に終える事が出来ましました。

実行委員会の一員として、ご協力いただいた多くの関係者の方々に厚く御礼申し上げると共に深く感謝申し上げます。

思えば、開催2か月前に展示場所が丸の内オアゾ○○広場にやっと決まった様な今までに経験した事のない悪条件の中、多くの犠牲を出しながらも9月23日～10月2日まで10日間の展示・イベントを終える事が出来ました。この成果は当会にとっても、地元にとっても次の展開に向けての大きな可能性と希望を与えてくれました。その日本地図も今は大役を果たし、森の広場のベンチとして里帰りをしております。

丸の内オアゾ○○広場に展示された今回のコンペ受賞作品、全長9m丸太日本地図〈福本　遼氏「A-round Wood Bench」、東　俊一郎氏の縞（しま）、辻本崇樹 氏「gentle Trees」、国澤信二氏「表裏の長椅子」、岩橋　翼氏「引き出すベンチ」等５点のベンチが醸し出す、杉の香りに引き寄せられ丸の内街の人々が集う森林再生トークショーは、人工的なオフィス街に都市と森を結ぶ「新しい風景」を創出させました。

そして大きな成果は地元の市民が、自分たちの森の杉材の魅力に気が付き、お店や家を杉材でリホームしたい、杉のベンチを置きたい等、地元の森の間伐材活用の道が大きく進展しそうな可能性が出てきました。

今回の展示のために会員の「命の森宣言」と「フォレスト・ノバ」の学生さん達が夏の暑い盛り、4mの丸太20本の搬出に格闘し、その材を地元製材所「藤商木材」が製材し、加工を地元木工職人「吉永建具店」、「藤工房」、「木田製作所」等の協力により製品が完成しました。

当会の念願だった森林再生の道筋として生産から製作までの流れが見えてきた事です。 林業行政施策の問題点である出口のない切り捨て間伐から、間伐材活用のための出口づくりの手がかりになりました。

これこそ当会と相模湖商工会との連携による森林再生促進実行委員会が4年間コンペを実施して取り組んできた目標の通過点でした。

この一転の光明を手掛かりに、この市場開拓の道筋として流通・販売までのシステムづくりに新しい体制で取り組んでいきたいと思っています。

全国的に問題視されている切り捨て間伐の課題解決として、間伐材活用の「出口づくり」は森林再生事業として外部と地域が一体で取り組むべき必須の事業といえます。「若柳・嵐山」の国際認証の豊かな森を価値ある資源として、木材の活用の仕組みづくりに新たな事業体制でこの活動の継続と進展をはかり、地域が自立できる持続可能な事業システムを、地域社会の貢献という国際認証のガイドラインに沿った活動として実現させたいと思っています。

丸茂　喬（本会、理事）

[報告３]
フォレストノバ活動報告

11月3日

11月になり、山の木々も紅葉してきました。

さて、11月3日にForest Nova☆は毎月第一日曜日に活動している小原地域で行われている、今年で18回目の『小原本陣祭』というお祭りに参加させていただきました。

事前準備が10月23日、29日、お祭りが11月3日という日程でした。

去年も大名行列(籠かき)、仕出し、受付という形で参加をさせていただいたのですが、今年はそれに加えForest Nova☆のブースを出させていただけるということで、お祭りの前から例年以上に盛り上がりました。

事前準備では、終了後にごちそうしていただいたり、当初予定に無かったテントをブースに取り付けていただいたりと地域の人方々の温かさを大いに感じました。

お祭り当日は大名行列(籠かき)、仕出し、受付、ブース担当に分かれて行動しました。

大名行列(籠かき)は大名行列で籠を担ぐという役目なのですが、普段着ない江戸時代風の衣装の着方が分からなかったり、重い籠を担いで肩が痛くなったりと、体力の無さを感じさせられました。昔のお祭りでは今のように木を多く使った籠でなく、重い鉄を使った籠を使用していて、さらに人を乗せて歩いていたということを聞き、大変驚きました。ちなみにこのお祭りで使用している籠は、同日に行われている箱根の大名行列で使用されている籠をモデルに作られたそうです。

ブースでは、相模湖の森(嵐山)で間伐した木を使って、時計、根付の販売を行いました。当初はストラップを計画していたのですが、お祭りが”和”の雰囲気であることを考え、”根付”に変更して販売することになりました。当日は子供たちを中心に多くの人が来てくれ、「小原本陣祭の雰囲気と合っている」、「木を普段から持ち歩ける」などと好評でした。お祭りの後はごちそうをいただくなど、お祭り当日も地域の方々の温かさにForest Nova☆一同、とても感動しました。

今回の『小原本陣祭』を通じて、盛り上がる時は一気に盛り上がり、お祭りが終わるとテキパキと片づけをされる地域の方々から、Forest Nova☆も学ぶところがたくさんありました。これからも、この経験を活動、およびイベントなどに生かしていこうと思います！

瀬戸　智大（Forest Nova）

[報告４]　定例活動、参加者の感想から

　11月20日、相模湖実習に参加し、若柳・嵐山の森の地域観察と測量 を行った。

●若柳・嵐山の森を観察して分かったこと

１００～１２０年生のスギ林の林道脇に切り株があった。木口面を見ると辺材部分にだけコケが生えていた。このことから、まだ生きていて残っている養分をねらってコケが生えているのではないか、と予測できる。このスギ林の目的は(1)スギを生産する(2)水源涵養機能を担うの２つが挙げられる。川付近の原生林木を伐採すると、次の樹木が生える間に土壌がもろくなるのでなるべく原生林木を育てた方がよい。

　一般的に、樹高は土地の良し悪し、樹木の太さは樹木の密度によって決まってくる。

●感想

　学内演習場所はあまり傾斜がなく草本類・低木が生えていなかったため、相模湖のような傾斜が激しく、草本類・低木が生えている場での測量・毎木調査は貴重な体験だった。しかし、誤差が大きくなってしまったため、次回に調査する際はもっと正確にできるようにしたいと感じた。また、到着直後に、ダムに溜まり、引き上げられて集められていた木片から湯気が出ていたのを目にして疑問に思っていたら、先輩から前日の雨で木片が含んだ水分が、木片が日光に当たって暖められて蒸気になっているということを教わった。蒸気が目に見えるほど木材は吸水性・放水性を有していることを知り、驚かされた。他にもなにげないものにも疑問を持って、様々な角度から考えることが大切だとおもった。

鈴木　奈緒子
（日本大学生物資源科学部）

[報告５] 積み木でつくるアンコールワット（高井戸中学校）

　１０月末日の杉並区立高井戸中学校にて行われた学芸発表会で、本会の積み木を使用したアンコールワット製作が行われました。

　同校地球環境部の生徒を中心に、上智大学人材養成研究センターの指導をしていただき、完成させることができました。

　学芸発表会自体は、いわゆる合唱コンクールがメインの行事です。放課後は毎日のように練習が行われ、生徒達はその練習の後、限られた時間の中で製作に取り組みました。しかし、中心にある５つの塔ができ、外側の回廊、正面の参道（位置が気に入らなかったようで４回つくり直していましたが）、十字回廊と完成するにしたがい、生徒のモチベーションと集中力は上がっていき、一気に完成にこぎつけました。

　展示公開当日、生徒向け展示見学日ともに、会場に入るなり、すごい！ともらす生徒がほとんどで、その迫力が伝わったようです。同時に上智大学に用意していただいたパネルなども会場を「本格」的なものにする効果があり、パネルや資料をくいるように見ている見学者の姿が印象的でした。

　昨年の法隆寺と夏休みの東京駅と大きく異なることは、対象となる文化財の隅々まで知っている専門家の方に指導いただいたことで、写真を見て、似たようなものを作るのではなく、ここはこうなっているのでこうしたほうがよいというアドバイスで、作りにリアリティが増したことです。さらには、その構造の宗教的な意味までも考えながらできたことは大きな成果だと感じています。

　３月に予定しています、東京駅八重洲北口キッチンストリートでの積み木でつくる東京駅プロジェクトもこのように専門家のご指導をいただきながら製作に挑戦したいと思います。

宮村　連理（本会、理事）

**[事務局からの
お知らせ、お願い]**

地方銀行有志の会の研修会を受入れました。写真でご報告します。

詳細は来月号でご報告します。

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合してください。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食；自分の食器(お椀・お箸)

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

NPO法人
緑のダム北相模

急がず、無理せず、楽しく、休まず、
ボチボチと・・。
そして、沢山の参加で森は、良くなる。
（台風の日は勉強会開催。１３年間、
一日も休まず“継続は力”。）

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
事務局：154-0023　東京都世田谷区若林３－３５－９
発行人：NPO緑のダム北相模　事務局　03－3411－1636
ＵＲＬ：http//www.midorinodam.jp
E-mail： info●midorinodam.jp　●を＠に変更して使用してください
協働団体：セブンイレブンみどりの基金、相模原市（市民協働推進課）、
東海大学付属望星高等学校、生命の森宣言・東京
支援団体：WWF JAPAN、イオン財団、市民社会チャレンジ基金、
神奈川県建具協同組合、JFEメカニカル、東急コミュニティ、
マルモ出版